

令和元事業年度

財 務 諸 表

独立行政法人環境再生保全機構

(承 継 勘 定)

貸借対照表  
(令和2年3月31日)

(承継勘定)

(単位：円)

科 目	金 額	
(資産の部)		
I 流動資産		
現金及び預金		2,550,793,174
有価証券		1,000,000,000
割賦譲渡元金	5,960,366,611	
貸倒引当金	△ 116,191,016	5,844,175,595
未収収益	3,622,329	
貸倒引当金	△ 1,013	3,621,316
未収金		38,044,917
貸付金	127,137,206	
貸倒引当金	△ 98,177,206	28,960,000
前払費用		189,812
流動資産合計		9,465,784,814
II 固定資産		
1 有形固定資産		
建物附属設備	18,024,373	
減価償却累計額	△ 15,417,770	2,606,603
工具器具備品	41,778,692	
減価償却累計額	△ 10,104,308	31,674,384
有形固定資産合計		34,280,987
2 無形固定資産		
ソフトウェア		47,137,747
その他無形固定資産		273,000
無形固定資産合計		47,410,747
3 投資その他の資産		
敷金保証金		81,541,920
破産更生債権等	2,026,895,033	
貸倒引当金	△ 1,623,911,833	402,983,200
投資その他の資産合計		484,525,120
固定資産合計		566,216,854
資産合計		10,032,001,668
(負債の部)		
I 流動負債		
未払金		23,404,012
未払費用		1,826,203
リース債務		7,910,606
預り金		112,310
引当金		
賞与引当金	10,496,338	10,496,338
割賦繰延利益		19,192,272
流動負債合計		62,941,741
II 固定負債		
資産見返負債(注)		
資産見返運営費交付金(注)	50,887,169	50,887,169
引当金		
退職給付引当金	88,572,379	88,572,379
長期リース債務		25,735,315
固定負債合計		165,194,863
負債合計		228,136,604
(純資産の部)		
I 資本金		
政府出資金		481,827,123
資本金合計		481,827,123
II 資本剰余金		
その他行政コスト累計額(注)		
除売却差額相当累計額(注)	△ 22,191,400	△ 22,191,400
資本剰余金合計		△ 22,191,400
III 利益剰余金		
前中期目標期間繰越積立金(注)		9,024,845,581
当期未処分利益		319,383,760
(うち当期総利益)		(319,383,760)
利益剰余金合計		9,344,229,341
純資産合計		9,803,865,064
負債純資産合計		10,032,001,668

(注)は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

行政コスト計算書  
(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(承継勘定)

(単位：円)

科 目	金 額	
I 損益計算書上の費用		
建設譲渡業務費	2,789,817,784	
一般管理費	240,741,671	
財務費用	135,856	
雑 損	4,592,643	
臨時損失	1	
損益計算書上の費用合計		3,035,287,955
II その他行政コスト		
その他行政コスト合計		0
III 行政コスト		3,035,287,955

## 損益計算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(承継勘定)

(単位：円)

科 目	金 額		
経常費用			
建設譲渡業務費			
事業資産譲渡原価	2,789,817,784	2,789,817,784	
一般管理費			
役職員人件費	111,089,240		
雑給	17,606,257		
賞与引当金繰入	10,496,338		
退職給付費用	12,024,516		
業務委託費	18,387,602		
賃借料	22,606,975		
減価償却費	21,760,840		
その他一般管理費	26,769,903	240,741,671	
財務費用			
支払利息	135,856	135,856	
雑損		4,592,643	
経常費用合計			3,035,287,954
経常収益			
事業資産譲渡高		2,793,279,260	
資産見返運営費交付金戻入(注)		18,447,392	
貸倒引当金戻入		11,507,039	
財務収益			
有価証券利息	31,643		
割賦譲渡利息	239,478,192		
貸付金利息	10,035,469	249,545,304	
雑益		281,892,719	
経常収益合計			3,354,671,714
経常利益			319,383,760
臨時損失			
固定資産除却損		1	
臨時損失合計			1
臨時利益			
資産見返運営費交付金戻入(注)		1	
臨時利益合計			1
当期純利益			319,383,760
当期総利益			319,383,760

(注) は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

純資産変動計算書  
(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(承継勘定)

(単位：円)

区 分	Ⅰ 資本金		Ⅱ 資本剰余金		Ⅲ 利益剰余金					純資産 合計
	政府 出資金	資本金合計	その他行政コスト 累計額	資本剰余金 合計	前中期目標期間繰越 積立金	積立金	当期末処分利益	利益剰余金 合計		
			除売却差額相当 累計額 (－)					うち当期総利益		
当期首残高	481,827,123	481,827,123	△ 22,191,400	△ 22,191,400	17,209,849,028	8,151,766,734	2,172,107,953	2,172,107,953	27,533,723,715	27,993,359,438
当期変動額										
Ⅰ 資本金の当期変動額										
Ⅱ 資本剰余金の当期変動額										
Ⅲ 利益剰余金の当期変動額										
(1) 利益の処分又は損失の処理										
前中期目標期間からの繰越し					9,024,845,581	△ 9,024,845,581	—	—	—	—
利益処分による積立					△ 17,209,849,028	19,381,956,981	△ 2,172,107,953	△ 2,172,107,953	—	—
国庫納付金の納付					—	△ 18,508,878,134	—	—	△ 18,508,878,134	△ 18,508,878,134
(2) その他										
当期純利益					—	—	319,383,760	319,383,760	319,383,760	319,383,760
当期変動額合計	—	—	—	—	△ 8,185,003,447	△ 8,151,766,734	△ 1,852,724,193	△ 1,852,724,193	△ 18,189,494,374	△ 18,189,494,374
当期末残高	481,827,123	481,827,123	△ 22,191,400	△ 22,191,400	9,024,845,581	—	319,383,760	319,383,760	9,344,229,341	9,803,865,064

・独立行政法人会計基準等の改訂に伴い、資本剰余金及び除売却差額相当累計額について表示方法を変更したことにより、資本剰余金の当期首残高が△22,191,400減少し、除売却差額相当累計額の当期首残高が△22,191,400増加しております。

キャッシュ・フロー計算書  
(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(承継勘定)

(単位：円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
役職員人件費支出	△ 127,210,937
その他の業務支出	△ 109,570,866
割賦譲渡元金の回収による収入	2,889,173,425
貸付金の回収による収入	460,752,464
その他の業務収入	190,056,032
小 計	3,303,200,118
利息の受取額	251,436,825
利息の支払額	△ 135,856
国庫納付金の支払額	△ 18,508,878,134
業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 14,954,377,047
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△ 1,000,000,000
有形固定資産の取得による支出	△ 81,408
無形固定資産の取得による支出	△ 91,056
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,000,172,464
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
その他の財務支出	△ 3,535,449
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,535,449
IV 資金増加額 (△資金減少額)	△ 15,958,084,960
V 資金期首残高	18,508,878,134
VI 資金期末残高	2,550,793,174

利益の処分に関する書類  
(令和2年3月31日)

(承継勘定)

(単位：円)

科 目	金 額		
I 当期末処分利益 当期総利益		319,383,760	319,383,760
II 利益処分額 積立金		319,383,760	319,383,760

(承継勘定)

## 注記事項

### [重要な会計方針]

当事業年度より、「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（平成30年9月3日改訂）並びに「独立行政法人会計基準及び独立行政法人会計基準注解に関するQ&A」（平成31年3月最終改訂）（以下、独立行政法人会計基準等という）を適用して、財務諸表等を作成しております。

#### 1. 減価償却の会計処理方法

##### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりです。

建物附属設備	3～15年
工具器具備品	2～15年

##### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、法人内利用のソフトウェアの耐用年数については、法人内における利用可能期間（5年）に基づいております。

##### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

#### 2. 賞与引当金の計上基準

役員及び職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額の当期負担額を計上しております。

#### 3. 退職給付に係る引当金及び見積額の計上基準並びに退職給付費用の処理方法

##### (1) 退職一時金

役員及び職員の退職給付に備えるため、期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

##### (2) 企業年金基金から支給される年金給付

役員及び職員の退職給付に備えるため、経済産業関係法人企業年金基金への掛金及び年金基金積立不足額について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

また、過去勤務費用は、発生年度において一括処理しております。

#### 4. 貸倒引当金の計上基準

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### 5. 割賦譲渡に係る収益認識基準

事業資産の引渡し時において、割賦取引に係る債権元本総額（消費税を除く）を割賦譲渡元金として計上し、回収日をもって事業資産譲渡高及び事業資産譲渡原価として計上する方法によっております。なお、未回収の割賦譲渡元金に対応する未経過利益は、割賦繰延利益として負債計上しております。

#### 6. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

#### 〔表示方法の変更〕

純資産の部の損益外除売却差額相当額について、前事業年度まで資本剰余金に含めて表示しておりましたが、独立行政法人会計基準等の改訂に伴い、当事業年度より、資本剰余金を除いて、その他行政コスト累計額の除売却差額相当累計額として表示しております。

#### 〔貸借対照表に関する事項〕

##### 1. 金融商品関係

##### (1) 金融商品の状況に関する事項

##### ① 金融商品に対する取組方針

承継勘定においては、旧環境事業団から承継された建設譲渡事業及び貸付事業に係る債権の管理回収を行っており、資金運用については、短期的な預金等に限定しております。

##### ② 金融商品の内容及びリスク

承継勘定が保有する金融資産は、主として建設譲渡事業に係る割賦譲渡債権と貸付事業に係る貸付金債権であります。これらは国内の地方公共団体や法人等に対するものであり、契約先の債務不履行によってもたらされる信用リスクにさらされております。

##### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理は、債権管理回収に係る諸規程に基づき割賦譲渡元金債権及び貸付金債権の債務者の信用情報管理、内部格付、返済金の入金管理、保証や担保の設定、問題債権への対応等の与信管理に係る体制を整備して運用しております。与信管理に係る体制は、内部格付、返済金の入金管理等は主として債権管理部門が行い、保証や担保の設定、問題債権への対応等、債権全般に係る信用情報管理は債権回収部門が行っています。更に、入金状況や延滞発生や延滞解消状況は適時に担当理事に報告しております。債権管理回収に係る基本方針の策定等は、理事長を委員長とする債権管理委員会を開催し、審議することとしております。

## 2. 有価証券関係

### (1) 満期保有目的債券で時価のあるもの

(単位：円)

区 分	種 類	貸借対照表計上額	決算日における 時価	差 額
時価が貸借対照表 計上額を超えない もの	譲渡性預金	1,000,000,000	1,000,000,000	—
合 計		1,000,000,000	1,000,000,000	—

### (2) 満期保有目的債券の決算日後における償還予定額

(単位：円)

区 分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
譲渡性預金	1,000,000,000	—	—	—
合 計	1,000,000,000	—	—	—

## 3. 退職給付関係

### (1) 採用している退職給付制度の概要

当機構は、役員及び職員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

積立型の確定給付企業年金及び確定拠出企業年金は、経済産業関係法人企業年金基金に加入しております。

非積立型の退職一時金制度では、退職給付として、「独立行政法人環境再生保全機構役員退職手当規程」と「独立行政法人環境再生保全機構職員退職手当規程」に基づいた一時金を支給し、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

### (2) 確定給付制度

#### ① 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表 (③に掲げられたものを除く)

(単位：円)

a. 期首における退職給付債務	51,991,673
b. 勤務費用	879,272
c. 利息費用	103,983
d. 数理計算上の差異の当期費用処理額	△ 661,611
e. 退職給付の支払額	△ 1,771,405
f. 過去勤務費用の当期発生額	—
g. 制度加入者からの拠出額	309,905
h. 期末における退職給付債務 (a～g)	50,851,817

②年金資産の期首残高と期末残高の調整表

(単位：円)

a. 期首における年金資産	42,544,239
b. 期待運用収益	1,483,092
c. 数理計算上の差異の当期費用処理額	△ 3,860,990
d. 事業主からの拠出額	2,070,469
e. 退職給付の支払額	△ 1,771,405
f. 制度加入者からの拠出額	309,905
g. 期末における年金資産額 (a～f)	40,775,310

③簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(単位：円)

a. 期首における退職給付引当金	97,405,881
b. 退職給付費用	4,600,040
c. 退職給付の支払額	△ 19,405,662
d. 期末における退職給付引当金 (a～c)	82,600,259

④退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

(単位：円)

a. 積立型制度の退職給付債務	50,851,817
b. 年金資産	△ 40,775,310
c. 積立型制度の未積立退職給付債務 (a+b)	10,076,507
d. 非積立型制度の未積立退職給付債務	82,600,259
e. 小計 (c+d)	92,676,766
f. 未認識数理計算上の差異	△ 4,104,387
g. 未認識過去勤務費用	—
h. 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 (e+f)	88,572,379
i. 退職給付引当金 (h)	88,572,379
j. 前払年金費用	—
k. 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 (h)	88,572,379

(2) 金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めておりません（(注2) 参照）。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
① 現金及び預金	2,550,793,174	2,550,793,174	—
② 有価証券	1,000,000,000	1,000,000,000	—
③ 割賦譲渡元金 貸倒引当金	5,960,366,611 △116,191,016		
	5,844,175,595	6,044,400,748	200,225,153
④ 貸付金 貸倒引当金	127,137,206 △98,177,206		
	28,960,000	28,960,000	—
⑤ 破産更生債権等 貸倒引当金	2,026,895,033 △1,623,911,833		
	402,983,200	402,983,200	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券等に関する事項

①現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

②有価証券

有価証券のうち、譲渡性預金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

③割賦譲渡元金

一般債権については、元利金の合計額を同様の新規建設譲渡をしたと仮定した場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。また、貸倒懸念債権については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

④貸付金

貸倒懸念債権については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

⑤破産更生債権等

破産更生債権等については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

(注2) 敷金保証金（貸借対照表計上額 81,541,920 円）は、市場価格がなく、かつ返還時期の見積りができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

⑤退職給付に関する損益

(単位：円)

a. 勤務費用	879,272
b. 利息費用	103,983
c. 期待運用収益	△ 1,483,092
d. 数理計算上の差異の当期費用処理額	7,688,355
e. 過去勤務費用の当期費用処理額	—
g. 簡便法で計算した退職給付費用	4,600,040
h. 合計 (a～g)	11,788,558

⑥年金資産の主な内訳

年金資産に対する主な分類ごとの比率は次の通りです。

a. 債券	39%
b. 株式	33%
c. 保険資産 (一般勘定)	20%
d. その他	8%
e. 合計 (a～d)	100%

⑦長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在の年金資産の配分と過去の運用実績を考慮しております。

⑧数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎 (加重平均で表しています。)

a. 割引率	0.2%
b. 長期期待運用収益率	3.486%

(3) 確定拠出制度

当法人の確定拠出制度への拠出額は、235,958円です。

4. 減損会計関係

当該事業年度における減損の兆候については以下のとおりです。

電話加入権

用途	種類	場所	回線数	帳簿価額
通信設備	電話加入権	本部 (神奈川県川崎市)	21	273,000円 (1回線当たり13,000円)

電話加入権の売買市場価格が取得時点と比して著しく下落したため、減損の兆候が認められましたが、回収可能サービス価額 (NTTの公定価格 一般回線及びINSネット 64回線 36,000円) が帳簿価額を上回っているため、減損損失は認識されませんでした。

[行政コスト計算書に関する事項]

1. 独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

行政コスト 3,035,287,955 円

自己収入 △3,336,224,322 円

機会費用 1,216,839 円

独立行政法人の業務運営に関して

国民の負担に帰せられるコスト △299,719,528 円

2. 機会費用の計上方法

(1) 政府出資又は地方公共団体出資等の機会費用の計算に使用した利率

10年利付国債の令和2年3月末利回りを参考に0.005%で計算しております。

(2) 国からの出向者から生ずる機会費用の計算方法

当該職員が国に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、独立行政法人での勤務期間に対応する部分について、給与規則に定める退職給付支給基準等を参考に計算しております。

[キャッシュ・フロー計算書に関する事項]

資金の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金及び預金 2,550,793,174 円

資金期末残高 2,550,793,174 円

[重要な債務負担行為]

該当事項はありません。

[重要な後発事象]

該当事項はありません。

(承継勘定)

## 附 属 明 細 書

### 1. 固定資産の取得及び処分並びに減価償却費及び減損損失累計額の明細

(単位：円)

資 産 の 種 類	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減 価 償 却 累 計 額		減 損 損 失 累 計 額		差引当期末 残 高	摘 要	
					当期償却額		当期減損額				
有形固定資産 (減価償却費)	建物附属設備	18,024,373	—	—	18,024,373	15,417,770	1,021,712	—	—	2,606,603	
	工具器具備品	17,993,190	30,050,601	6,265,099	41,778,692	10,104,308	4,076,675	—	—	31,674,384	
	計	36,017,563	30,050,601	6,265,099	59,803,065	25,522,078	5,098,387	—	—	34,280,987	
有形固定資産 合計	建物附属設備	18,024,373	—	—	18,024,373	15,417,770	1,021,712	—	—	2,606,603	
	工具器具備品	17,993,190	30,050,601	6,265,099	41,778,692	10,104,308	4,076,675	—	—	31,674,384	
	計	36,017,563	30,050,601	6,265,099	59,803,065	25,522,078	5,098,387	—	—	34,280,987	
無形固定資産 (減価償却費)	ソフトウェア	108,893,048	—	—	108,893,048	61,755,301	16,662,453	—	—	47,137,747	
	計	108,893,048	—	—	108,893,048	61,755,301	16,662,453	—	—	47,137,747	
非償却資産	その他無形固定資産	273,000	—	—	273,000	—	—	—	—	273,000	
	計	273,000	—	—	273,000	—	—	—	—	273,000	
無形固定資産 合計	ソフトウェア	108,893,048	—	—	108,893,048	61,755,301	16,662,453	—	—	47,137,747	
	その他無形固定資産	273,000	—	—	273,000	—	—	—	—	273,000	
	計	109,166,048	—	—	109,166,048	61,755,301	16,662,453	—	—	47,410,747	
投資その他の 資産	敷金保証金	81,541,920	—	—	81,541,920	—	—	—	—	81,541,920	
	破産更生債権等	659,384,596	1,550,000,000	182,489,563	2,026,895,033	—	—	—	—	2,026,895,033	
	計	740,926,516	1,550,000,000	182,489,563	2,108,436,953	—	—	—	—	2,108,436,953	

### 2. 有価証券の明細

流動資産として計上された有価証券

(単位：円)

満期保有目的債券	種類及び銘柄	取得価額	券面総額	貸借対照表 計上額	当期費用に含ま れた評価差額	摘 要
	譲渡性預金	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	—	
	計	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	—	

### 3. 引当金の明細

(単位：円)

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	摘 要
			目的使用	その他		
賞与引当金	10,849,144	10,496,338	10,849,144	—	10,496,338	
計	10,849,144	10,496,338	10,849,144	—	10,496,338	

### 4. 貸付金等に対する貸倒引当金の明細

(単位：円)

区 分	貸 付 金 等 の 残 高			貸 倒 引 当 金 の 残 高			摘 要
	期首残高	当期増減額	期末残高	期首残高	当期増減額	期末残高	
割賦譲渡元金	8,732,161,533	△2,771,794,922	5,960,366,611	185,886,718	△69,695,702	116,191,016	
一般債権	7,963,960,872	△2,524,433,360	5,439,527,512	146,399	△80,336	66,063	
貸倒懸念債権	768,200,661	△247,361,562	520,839,099	185,740,319	△69,615,366	116,124,953	
未収収益	5,233,566	△1,642,880	3,590,686	2,042	△1,029	1,013	
一般債権	4,944,409	△1,599,044	3,345,365	93	△54	39	
貸倒懸念債権	289,157	△43,836	245,321	1,949	△975	974	
貸付金	2,123,189,944	△1,996,052,738	127,137,206	1,200,823,176	△1,102,645,970	98,177,206	
貸倒懸念債権	2,123,189,944	△1,996,052,738	127,137,206	1,200,823,176	△1,102,645,970	98,177,206	
破産更生債権等	659,384,596	1,367,510,437	2,026,895,033	613,588,075	1,010,323,758	1,623,911,833	
計	11,519,969,639	△3,401,980,103	8,117,989,536	2,000,300,011	△162,018,943	1,838,281,068	

(注) 貸倒引当金の算定方法は、「重要な会計方針」の「4. 貸倒引当金の計上基準」に記載しております。

### 5. 退職給付引当金の明細

(単位：円)

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘 要
退職給付債務合計額	149,397,554	5,231,589	21,177,067	133,452,076	
退職一時金に係る債務	97,405,881	4,600,040	19,405,662	82,600,259	
企業年金基金に係る債務	51,991,673	631,549	1,771,405	50,851,817	
未認識過去勤務債務及び未認識数理計 算上の差異	8,593,363	3,199,379	7,688,355	4,104,387	
制度加入者からの拠出額	—	309,905	309,905	—	
年金資産	42,544,239	2,476	1,771,405	40,775,310	
退職給付引当金	98,259,952	1,719,829	11,407,402	88,572,379	

## 6. 役員及び職員の給与の明細

(単位：千円、人)

区 分	報 酬 又 は 給 与		退 職 手 当	
	支 給 額	支給人員	支 給 額	支給人員
役 員	(242) 6,484	(1) 5	(-) 1,717	(-) 2
職 員	(-) 100,171	(-) 49	(-) 4,210	(-) 5
合 計	(242) 106,655	(1) 54	(-) 5,927	(-) 7

- (注) 1. 役員に対する報酬及び退職手当は、役員報酬規程及び役員退職手当規程に基づいて支給しております。  
職員に対する給与及び退職手当は、職員給与規程及び職員退職手当規程に基づいて支給しております。
2. 支給人員数は、年間平均支給人員数によっております。
3. 非常勤の役員及び職員については、外数で( )で記載しております。
4. 支給額及び支給人員数には各勘定で按分して負担している全ての役員及び共通部門の人員(45人)が含まれております。
5. 中期計画における人件費は、役員報酬、職員基本給及び職員諸手当(賞与支給額を含む)並びに超過勤務手当であり、附属明細書における報酬又は給与は、中期計画と同様であります。なお、法定福利費(共済掛金を含む)については、中期計画、附属明細書共に含まれておりません。
6. 退職手当は、中期計画では含まれておりませんが、附属明細書では退職一時金に係る支給額であります。
7. 金額は千円未満切捨てにて記載しております。

## 7. 上記以外の主な資産及び負債の明細

現金及び預金

(単位：円)

区 分	金 額	摘 要
普通預金	2,550,793,174	
計	2,550,793,174	